

13th-note

2014年1月センター試験

数学 I A ・ 解説

この教材を使う際は

- 表示：原作者のクレジット（「13th-note」）を表示してください。
- 継承：この教材を改変した結果生じた教材には、必ず、原作者のクレジット（「13th-note」）を表示してください。



Ver1.00 (2014-1-21)

第1問 [1] (1)

$$\begin{aligned}
 ab &= \frac{(1 + \sqrt{3})(1 - \sqrt{3})}{(1 + \sqrt{2})(1 - \sqrt{2})} = \frac{1 - 3}{1 - 2} = \underline{2}_{\text{ア}} \\
 a + b &= \frac{(1 + \sqrt{3})(1 - \sqrt{2}) + (1 - \sqrt{3})(1 + \sqrt{2})}{(1 + \sqrt{2})(1 - \sqrt{2})} \\
 &= \frac{1 - \sqrt{2} + \sqrt{3} - \sqrt{6} + 1 + \sqrt{2} - \sqrt{3} - \sqrt{6}}{1 - 2} \\
 &= \frac{2 - 2\sqrt{6}}{-1} = \frac{-2(-1 + \sqrt{6})}{-1} = \underline{2}_{\text{イ}}(-1 + \underline{\sqrt{6}}_{\text{オ}}) \\
 a^2 + b^2 &= (a + b)^2 - 2ab \\
 &= \{2(-1 + \sqrt{6})\}^2 - 2 \cdot 2 \\
 &= 4(1 - 2\sqrt{6} + 6) - 4 = -8\sqrt{6} + 24 = \underline{8}_{\text{カ}}(\underline{3}_{\text{キ}} - \underline{\sqrt{6}}_{\text{ク}})
 \end{aligned}$$

(2) (1) より,

$$a^2 + b^2 + 4(a + b) = 8(3 - \sqrt{6}) + 4 \cdot 2(-1 + \sqrt{6}) = \underline{16}_{\text{ケコ}}$$

である. $ab = 2$ より $b = \frac{2}{a}$ であるからこれを代入して

$$\begin{aligned}
 a^2 + b^2 + 4(a + b) &= 16 \\
 \Leftrightarrow a^2 + \left(\frac{2}{a}\right)^2 + 4\left(a + \frac{2}{a}\right) &= 16 \\
 \Leftrightarrow a^2 + \frac{4}{a^2} + 4a + \frac{8}{a} - 16 &= 0 \\
 a^4 + 4 + 4a^3 + 8a - 16a^2 &= 0 \\
 a^4 + \underline{4a^3} - \underline{16a^2} + \underline{8a} + \underline{4} &= 0
 \end{aligned}$$

◀ a だけの式だけにしたいので, b を消去する.

◀ 両辺を a^2 倍して分母を払った.

「最後に a の 4 次式が出てくるところは, 少し気づきにくい. それまでは, 式の値の計算をしっかりと身につけておけば 難しくない。」

解答番号	正解	配点
ア	2	1
イ (ウエ + $\sqrt{\text{オ}}$)	$2(-1 + \sqrt{6})$	2
カ (キ - $\sqrt{\text{ク}}$)	$8(3 - \sqrt{6})$	2
ケコ	16	2
$a^4 + \text{サ } a^3 - \text{シス } a^2 + \text{セ } a + \text{ソ} = 0$	$a^4 + 4a^3 - 16a^2 + 8a + 4 = 0$	3

[2] (1) U について、 $5 < \sqrt{n} < 6 \Leftrightarrow 25 < n < 36$ より、 $U = \{26, 27, 28, \dots, 35\}$ であり、 $35 - 25 = 10$ タチ 個ある。

(2) $P = \{28, 32\}$, $Q = \{30, 35\}$, $R = \{30\}$, $S = \{28, 35\}$ であり、 $P \cap R$ は空集合とわかり $\textcircled{0}$ は正しい。また、 \overline{Q} は 30, 35 以外であり、 R とは共通部分がない。よって、 $R \cap \overline{Q} = \emptyset$ になり $\textcircled{4}$ は正しい。 $\textcircled{0}$, $\textcircled{4}$ ツテ。

◀ 順序不問

(3) 順に調べると

$\textcircled{0}$ $P \cup R = \{28, 30, 32\}$ より、30 が \overline{Q} に含まれず、誤り。

$\textcircled{1}$ $S \cap \overline{Q} = \{28\}$ であり P に含まれ、正しい。

$\textcircled{2}$ $\overline{Q} \cap \overline{S} = \overline{Q \cup S}$ は 28, 30, 35 以外であり、32 は \overline{P} に含まれず、誤り。

$\textcircled{3}$ $\overline{P} \cup \overline{Q} = \overline{P \cap Q}$ は空集合の補集合であり、 U に一致し、 \overline{S} には含まれない。

$\textcircled{4}$ $\overline{R} \cap \overline{S} = \overline{R \cup S}$ は 28, 30, 35 以外であり、30, 35 以外の \overline{Q} に含まれ、正しい。

以上より正しいのは、 $\textcircled{1}$, $\textcircled{4}$ トナ。

◀ 順序不問

「集合の要素を書き並べ、注意深く双方を比べればよい問題。」

解答番号	正解	配点
タチ	10	2
ツとテ	0, 4 または 4, 0	4
トとナ	1, 4 または 4, 1	4

第2問

①を平方完成すると

$$y = (x+a)^2 - a^2 + 3a^2 - 6a - 36 = (x+a)^2 + 2a^2 - 6a - 36$$

であり、 G の頂点の座標は

$$\left(\text{ア} -a, \text{イ} 2a^2 - \text{ウ} 6a - \text{エオ} 36 \right)$$

である。また、 G と y 軸との交点は、 $x=0$ のときを考えて

$$p = 0^2 + 2a \cdot 0 + 3a^2 - 6a - 36 = 3a^2 - 6a - 36 \dots\dots ②$$

である。

(1) $p = -27$ のとき、②より

$$3a^2 - 6a - 36 = -27 \Leftrightarrow a = \text{カ} 3, \text{キク} -1$$

である。ここで

$$a = 3 \text{のとき, } G \text{の頂点は } (-3, 2 \cdot 3^2 - 6 \cdot 3 - 36) = (-3, -36).$$

$$a = -1 \text{のとき, } G \text{の頂点は } (-(-1), 2 \cdot (-1)^2 - 6 \cdot (-1) - 36) = (1, -28).$$

であり、 $a = 3$ のときの頂点 $(-3, -36)$ を x 軸方向に ク 、 y 軸方向に コ 平行移動すれば、 $a = -1$ のときの頂点 $(1, -28)$ になる。

(2) G が x 軸と交点をもつのは、下に凸な G の y 座標が 0 以下であればよいので

$$2a^2 - 6a - 36 \leq 0 \Leftrightarrow a^2 - 3a - 18 \leq 0 \Leftrightarrow (a-6)(a+3) \leq 0$$

より、 $\text{サシス} -3 \leq a \leq \text{セソ} 6$ であり、 $\text{ス} \text{③}$, $\text{セ} \text{③}$.

この範囲での $p = 3a^2 - 6a - 36$ の最大・最小は

$$\begin{aligned} p &= 3(a^2 - 2a) - 36 \\ &= 3\{(a-1)^2 - 1\} - 36 = 3(a-1)^2 - 39 \end{aligned}$$

から、最小は頂点のときで $a = \text{タ} 1$ で最小値 $\text{チツテ} -39$ 、最大は右端のときで $a = \text{ト} 6$ で最大値 $3 \cdot (6-1)^2 - 39 = 75 - 39 = \text{チニ} 36$ をとる。

G と x 軸の共有点の x 座標が -1 より大きいためには、 $-3 \leq a \leq 6$ の範囲において

G の軸が -1 より大きく、 $x = -1$ のとき $y > 0$

でないといけない。軸について $-a > -1$ より $a < 1$ 。 $x = -1$ のとき、 G は

$$y = (-1)^2 + 2a \cdot (-1) + 3a^2 - 6a - 36 = 3a^2 - 8a - 35$$

であり、これが正でないといけないから

$$3a^2 - 8a - 35 > 0 \Leftrightarrow (3a+7)(a-5) > 0 \Leftrightarrow a < -\frac{7}{3}, 8 < a$$

以上を数直線に表わして共通部分を考えると $\text{ヌネノ} -3 \leq a < -\frac{7}{3}$ ハヒフ であ

り、 $\text{リ} \text{③}$, $\text{ハ} \text{①}$.

◀ $a = 3, -1$ の間での平行移動は、①のグラフの頂点を比べればよい。

◀ 最大・最小を聞かれたら、まずはグラフを描く。

「やや易しめな、最後の問題以外は教科書の例題レベルの2次関数の問題。初めの問題で計算ミスをするとなりに響く形になっている。最後だけは場合分けをしっかりとして解く必要があるが、定番の問題である。」

解答番号	正解	配点
(ア a , イ $a^2 -$ ウ $a -$ エオ)	$(-a, 2a^2 - 6a - 36)$	3
カ, キク	3, -1	2
ケ	4	2
コ	8	2
サシ	-3	1
ス, セ	3, 3	1
ソ	6	1
タ	1	3
チツテ	-39	1
ト	6	3
ナニ	36	1
ヌネ	-3	2
ノ, ハ	3, 1	1
ヒフ	$\frac{-7}{3}$	2
ヘ		

第3問

∠B から見た余弦定理より

$$CA^2 = 4^2 + 2^2 - 2 \cdot 4 \cdot 2 \cdot \frac{1}{4} = 16$$

より, $CA = 4$ である. また, ∠A から見た余弦定理より

$$\cos \angle BAC = \frac{4^2 + 4^2 - 2^2}{2 \cdot 4 \cdot 4} = \frac{7}{8}$$

であり, $\sin \angle BAC = \sqrt{1 - \left(\frac{7}{8}\right)^2} = \frac{\sqrt{15}}{8}$ になる.

また, $\sin \angle ABC = \sqrt{1 - \left(\frac{1}{4}\right)^2} = \frac{\sqrt{15}}{4}$ から正弦定理より

$$2R = \frac{4}{\frac{\sqrt{15}}{4}} = \frac{16}{\sqrt{15}} = \frac{16}{15} \sqrt{15}$$

よって, $R = \frac{8\sqrt{15}}{15}$ である.

(1) BE は角の二等分線なので

$$AE : EC = AB : BC = 2 : 1$$

$$\text{より } AE = \frac{2}{2+1} AC = \frac{8}{3},$$

BE = x とおくと, △ABE について余弦定理より

$$\cos \angle ABE = \frac{4^2 + x^2 - \left(\frac{8}{3}\right)^2}{2 \cdot 4 \cdot x}$$

△CBE について, $CE = 4 - \frac{8}{3} = \frac{4}{3}$ を用いて余弦定理より

$$\cos \angle CBE = \frac{2^2 + x^2 - \left(\frac{4}{3}\right)^2}{2 \cdot 2 \cdot x}$$

である. ∠ABE = ∠CBE であるから

$$\begin{aligned} \frac{4^2 + x^2 - \left(\frac{8}{3}\right)^2}{2 \cdot 4 \cdot x} &= \frac{2^2 + x^2 - \left(\frac{4}{3}\right)^2}{2 \cdot 2 \cdot x} \\ \Leftrightarrow \frac{144}{9} + x^2 - \frac{64}{9} &= 2 \left(\frac{36}{9} + x^2 - \frac{16}{9} \right) \\ \Leftrightarrow \frac{80}{9} + x^2 &= \frac{40}{9} + 2x^2 \\ \Leftrightarrow x^2 &= \frac{40}{9} \end{aligned}$$

となって, $x = BE = \frac{2\sqrt{10}}{3}$ である. また, 線分 AD は ∠BAE の二等分線より

$BD : DE = BA : AE = 4 : \frac{8}{3} = 3 : 2$ であるから, $BD = \frac{3}{3+2} BE =$

$$\frac{3}{5} \cdot \frac{2\sqrt{10}}{3} = \frac{2\sqrt{10}}{5}$$

(2) △EBC と △EAF は相似であり, 相似比は $EB : EA = \frac{2\sqrt{10}}{3} : \frac{8}{3} = \sqrt{10} : 4$ であるから, 面積比は $(\sqrt{10})^2 : 4^2 = 5 : 8$ である. よって, △EBC は △EAF の

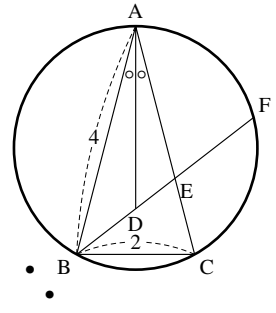
$\frac{5}{8}$ 倍である.

(3) まず, 円周角の定理より

$$\angle FAC = \angle FBC, \quad \angle FCA = \angle FBA$$

であるが, BF は ∠B の二等分線より $\angle FAC = \angle FCA$ である. よって $FA = FC$.

◀ sin は正の値しかとらない.



◀ 両辺を 8x 倍した

また、AD が $\angle A$ の二等分線であることにも注意して

$$\begin{aligned}\angle FAD &= \angle FAC + \angle CAD \\ &= \angle FBC + \angle DAB \\ &= \angle FBA + \angle DAB = \angle ADF\end{aligned}$$

よって $FA = FD$ でもある。つまり、④ネ。

◀ なお、 $FA : AE = CB : BE$ より

$$\begin{aligned}FA \cdot \frac{2\sqrt{10}}{3} &= \frac{8}{3} \cdot 2 \\ \Leftrightarrow FA &= \frac{8}{\sqrt{10}} = \frac{4}{5}\sqrt{10}\end{aligned}$$

「基本的な公式や事柄の確認がバランスよく並んだ、標準的な問題。」

解答番号	正解	配点
ア	4	3
イ	$\frac{7}{8}$	3
ウ		
$\sqrt{\text{エオ}}$	$\frac{\sqrt{15}}{8}$	3
カ		
キ $\sqrt{\text{クケ}}$	$\frac{8\sqrt{15}}{15}$	3
コサ		
シ	$\frac{8}{3}$	4
ス		
セ $\sqrt{\text{ソタ}}$	$\frac{2\sqrt{10}}{3}$	4
チ		
ツ $\sqrt{\text{テト}}$	$\frac{2\sqrt{10}}{5}$	4
ナ		
ニ	$\frac{5}{8}$	3
ヌ		
ネ	4	3

第4問

- (1) 3が2回, 4が2回であるから ${}_4C_2 = \underline{\text{ア}}6$ 通りある.
 (2) 3, 4, 5が1回ずつ出ればよく, $3! = \underline{\text{イ}}6$ 通りある.
 (3) Aから3回でCへ行くのは6通り, それぞれについて, Cから3回でDへいくのも6通り. よって $6 \times 6 = \underline{\text{ウエ}}36$ 通り.

◀ 数えてもすぐに求められる.

6回の移動は全部で 6^6 通りあるので, 確率は $\frac{36}{6^6} = \frac{1}{6^4} = \frac{1}{\underline{\text{オカキクケ}}1296}$ である.

- (4) ● 1の向きを含んだ場合は, 残りはすべて4の向きでないといけない. 1が6回のうち何回目で出るかを考え, $\underline{\text{コ}}6$ 通り.
 ● 2の向きを含んだ場合は, 残り5回のうち1回は5の向き, 4回は4の向きでないといけない. つまり, 2, 5, 4, 4, 4, 4の順列になり, $\frac{6!}{1!1!4!} = \underline{\text{サシ}}30$ 通り.
 ● 6の向きを含む場合も30通り.
 ● 残りの場合は, 例を1つ考えると4の向きが $\underline{\text{シ}}2$ 回でないといけないとわかる.
 さらに考えていくと, 3が1回出れば, 5が1回出ないといけない. しかし, これだけでは, Dには5回でたどり着いてしまう. そのため, 3がさらに1回出る必要がある. 結局, 3は2回出なくてはならず, 5も2回出る.
 まとめると, 3, 4, 5が2回ずつであればよいと分かり $\frac{6!}{2!2!2!} = \underline{\text{スセ}}90$ 通りある.
 これらをすべて足して, $6 + 30 + 30 + 90 = \underline{\text{セツタ}}156$ 通り.

◀ たとえば, 3, 5, 3, 5, 4, 4

「状況を把握するには少し時間がかかるかもしれないが, 実際には複雑な設定はなく, 丁寧に読めば, 題意はとらえやすい. ただ, 1から6の数字の順列へ問題を置き換えて考えられることに気付かないままだと, 時間がかかるだろう.」

解答番号	正解	配点
ア	6	2
イ	6	2
ウエ	36	3
オ	$\frac{1}{\underline{\text{カキクケ}}1296}$	3
コ	6	3
サ	30	3
シ	2	3
ス	90	3
セ	156	3